

らうと思ふ。父母にも大切なことである。教師にも大事なことである。總じて子供を取扱ふもの、

心掛くべき一つの要點ではあるまいか。

榎山督學官の「教育系統上幼稚園の保つべき地位」

を讀みて所感を述べ併せて御示教を乞ふ

東京府女子師範學校
附屬小學校主事

日 田 權 一

一 お願ひ

この間本誌の編輯主任の倉橋さんから何か寄稿せよとの御話があつた、が別に御話を申し上げる程のことと持ちませんので私共の小學校と幼稚園との聯絡について多少苦心して居ることもありませんから、何かその邊のことについて報告を致しませうと御返事をして置きました。其後へ本誌の六月號を送て戴きました。見るとフレール會の總會では是非拜聴したいと思つて生憎聞くことの出來

なかつた榎山先生のこの御講演が戴つて居るので喜んで拜讀し誠に有益に感じました。所が問題は同じく幼稚園と小學校との聯絡に關係があり、且つこれ迄私共の考へて居た事と多少方向を異にして居る様にもうかがはれる節もあり、又一層精しい説明をして戴きたい點もありますので前に申し上げた題目を代へることにした。この御講演に對して私共の様な疑問を以て居るものも他にあらうかと存じますから榎山先生には又適當の節本誌に於て御示教を下さる様に御願ひ致します。

一 御講話の要點

私の拜讀したる所によれば御講演の要點は大略かうであると思ふ。

1 我國に於ける幼稚園は甚だしく振はない。

2 其不振の主要原因は我教育系統上に於ける幼稚園の地位が曖昧なる爲めである。

3 幼稚園を振興するには我教育系統上幼稚園の獨立の價值を明にしなければならぬ。

4 従來行はれつゝある幼稚園保育の方針は大別すれば家庭的保育法と學校的保育法と二つになるが熟れも幼稚園の獨立的價值を認めざる誤つた方針である。

5 幼稚園の獨立の價值は社會的又は國民的生活の要素と成れる共同精神を涵養する事になる。之が爲めに共同作業に由つて保育するがよい、之れやがて他日國民となつた時、町村民として活動し、日本國民としての義務を果

すの基礎を作るのである。

之を通讀して行く時にこんな感想が起つた。第一我國の幼稚園の振はざることには常に聞く所であつたが今數字の上より内外の狀況を比較せられて一層の其感を深くした。次で其不振の原因が獨立の價值を有せざることについてはなるほど之も主要な原因であらうと思つた。それから現在の保育法が大體家庭的と學校的との二種類になるとのこと、之れには別に不審は起らなかつた。所がその双方ともに誤つた方針であるといふ説明に至つて幾度繰り返しても腑に落ちない節々がある。最後に幼稚園の獨特の價值は共同精神の涵養である、他日國民となつた時に町村民として活動し、日本國民として義務を果すの基礎を造るのである。その斷案を讀むに至て妙な感が起つた。幼稚園と共同精神、あの無邪氣に其日其日を暮して居る四つ五つの子供と國民としての義務、論理的に推して行けば明瞭なことで一點の疑問も起らぬことである

が、餘りに隔りたる推理過程の兩端を俄に結合せられて見ると感情上妙な氣がする。この妙な氣のする所に何か考究すべきことがあるのではあるまいか、これが貴重な本誌を借りて御尋ね致したい譯である。

三 我國の幼稚園の不振の

原因について

我國の幼稚園の不振は御話の通り誰も否定することの出来ない實事であるが、其不振の主要原因は其獨立の價値なき爲めであらうか、我國の子供を持つ親達が一般に幼稚教育者の積極的價値を了解する程に進んで居るのであらうか、假にお説の如く幼稚園は共同精神を涵養する所にして國民教育上必要缺くべからざる者であると積極的に其價値を鼓吹して見た所で之れを聞いて幼稚園に押しかけて來る程進んで居るのであらうか。あるにしても其は極めて少數のものに限られて居るのでは

あるまいか。幼稚園不振の理由はもつと根本的に我國の一般の社會生活上の狀態が子供を幼稚園に托せなければならぬ程必要に迫られて居ない爲めではあるまいか。假に大都會に於けるが如くこの必要に迫せられたる者があつても其經濟上未だ幼稚園に子供をやる丈の餘裕がないのではあるまいか。思ふに我國の生活狀態が次第にいそがしくなつて親が其子供を自分の手許で十分教育することが出来なくなれば少々經濟上のことは都合しても可成幼稚園に托する様になるであらう。さりとて幼稚園が現在のまゝでよいと云ふ譯ではないが現在の不振の主要原因が其獨立價値を發揮しない爲めのみではない。寧ろ、我國の一般の社會狀態がそこまで進んで居ない爲めではなからうかと思ふ。併しその點は今私がお尋ねしたいと思ふ主要問題ではない、如何となれば其原因の如何に拘はらず現代の幼稚園保育を振興するは我々の責務であるからである。

四 幼稚園の獨立的價値

値について

お説の如く我幼稚園の不振の主要原因が其獨立的價値を有せざるが爲めであるにしても、將來の國民としての義務を果す爲めの基礎として共同精神を涵養することが其獨立的價値であらうか、而して今日の我幼稚園はこの精神を涵養する爲めに甚しく改造しなければならぬものであらうか、この點につきて主として御尋を致したいのである。

全體幼稚園の直接目的は幼兒現在の爲めに教育することを主とすべきか、將た、將來國民としての爲めた教育することを主とすべきか。固より教育といふことは如何なる教育でも其被教育の將來の爲めでないものはあるまいけれども直接の目的としては教育の程度により其現在の生活を完成することを主とすべきか、又將來の生活に資することを主とすべきかにつきて自ら輕重があると思ふ。

而して教育の初歩に於ける程、前者に重きを置くのが主であるまいか、此點よりすれば私は幼稚園の保育の如き初歩の教育に於ては其直接目的としては兒童の現在の生活即幼兒としての生活を完成せしめ彼等をして幼兒として適當にして十分なる發達をなさしむることを主としたいと思ふ。斯く考へて來ると幼稚園の保育の如き四五歳の幼兒の教育の根本方針は將來國民としての國家的及社會的要求よりも先づこの時期の幼兒としての個人的要求によりて決定したいと思ふ。そこでこの問題の決定には國家が如何なることを要求するかといふとよりも幼兒が如何なることを要求するかといふことを先づ考へたいと思ふ。一體にこの時期の兒童の特質から云へば人間として甚だ未成熟の状態にあるので、早く一人前の者に迄發達して獨立し得る様にと汲々として居る時期であるから、他人の爲めを顧慮する様な愛他的の共同精神よりも——寧ろ「願他的の」と云ひ得べくばその方が適當かもしれ

ぬ——、先づ早く自己を完成せんとする主我的精神の旺盛なる時期である。さればこの時期の教育方針としては寧ろその主我的傾向を利用して精神的にも身體的にも彼等自身の個體を完成せしむることが急務ではあるまいか、かく申せばとてこの主我的傾向を増長せしめ將來不道德なる悪習慣の素地を馴致し様といふのではないことは勿論である、さればこの時期の子供にも既に發達し始めて居る社交性を無視する譯ではない。否無視せざるのみならず十分發達せしめたいのである。されど之を發達せしむの目的は兒童の現在の要求を満足せしめんが爲にするのが主であつて、お説の如く彼等が將來國民としての要求から來るではない。それは、自然の結果であると思ふ。之を自然の結果と見るのと、直接の目的とするのとは自ら差別が起る。この社交性の發達即ち共同精神の發達を將來の國民生活の爲めに直接に要求することになると、其範圍の程度についても單に自然の發達の

結果と見るよりも重く之を要求することになる。隨つて私が主としたいと考へて居る主我的傾向を利用して個體自身を完成せしめんとすることよりも之を重く見ることになる。更に一步を進めて云ふならばこの主我的傾向はとかく共同的精神と相反し易きものなれば努めて之を抑壓するといふことになり隨つて個體自身の完成といふことを妨げることになりはすまいかと思ふのである。かく申しまする私の根本感想から推して來ると、お話の如くこの社交性を發達せしむるとが將來の國民的生活の基礎となるといふならば幼兒に最も顯著なる特質とも云ふべき主我的傾向を利用して彼等をして精神的にも身體的にも幼兒としての彼等自身を完成せしむることが一層將來の國民的生活の基礎として必要なるものではあるまいか。而して幼兒としては寧ろより多くこの方が主要ではあるまいか。果して然らばこの共同精神を養ふことのみが幼稚園保育の主要目的ではあるまいかと思

ふ。獨立的價値ではあるまいかと思ふ。この精神の發揮は兒童が自己の完成に近くに從ひ自然に顯著になることは明なる事實である。さればかゝる共同精神の涵養は幼稚園保育の獨立的價値といふよりも此時期に次ぎて來るべき小學校に於て起る一特徴と見るべきものにあらざるか。然るに學校教育に於ては規律を正しくせなければならぬからこの精神を十分發揮する事が出來ぬとて之を斥けどうしても幼稚園でなければ本統にこの精神は養はれないとお説がよく分りませぬ。小學校と幼稚園と孰れがこの共同精神を發揮するに適するであらうか。私は自分の小學校や幼稚園に於ける事實を否定することは出來ない様に思ひます。

五 所謂共同作業とはいか

なることを指示せらる

るものであるか

前の疑問の如何に拘はらず、幼稚園に於ける共

同的精神の涵養の不必要を唱ふるのではないのみならず、兒童の要求する範圍内に於ては可成之を満足せしめてやりたいと思ふのであるが、却説お説の所謂共同精神涵養の方法たる共同作業とはいかなることを指示せらるゝのであるか。詳細なる御説明がないからよく分り兼ねるのであるが、四五人宛を一組とせる家庭的保育法に満足せられざる所、又「共同精神を涵養する」とに努めるのである故に幼稚園の仕事は各自勝手に遊ばせるのではなく、團體に共同の仕事を見せて保母がそれを監督するのである」と説かれたる所などを見れば普通一人の保母の擔任して居る一組の幼兒、三十人内外乃至四十人内外のものに共同の仕事を課するものゝ如くも聞える。果して然りとせば此丈の人數の幼兒に如何なる仕事を課するのであらうか。一の大なる仕事を一組の兒童の各兒に分ち課して爲さしむるのであらうか。私其の經驗によれば幼兒をしてかかる仕事の全體を了解せしめ、且つ各自が其の如

何なる部分を爲しつゝあるかを知らしむることは極めて困難なることである。保育が学校の教授流に傾くといふ批難は多くかゝる場合に起るのである。各自に任意の物を製作せしめて最後に其製作物を集めて一團の大製作に構成せんとするのであるか、それならば其作業中の兒童の心理作用には何等の共同的精神も働かないのであるまいか。且つ其結果を集めた所で多くは保姆の仕事となつて幼兒には只傍觀させることが多くなるであらう。

かくては折角の作業も餘り價値のないものとなるであらう。實際に於て毎日園兒の遊んで居る所を見るに殆んど皆三々五々、組をなして遊んでをる。孤獨で居る子供は殆んどないが、其一組といふのは砂場や「お叔母さん事」の五六人、が多い方である。これとても其中心兒童に比較的しかつかりしたものが居なくては長くは保てない。追々に分散する、其他は兵隊事、電車事、馬車事等多くは三四人のことが多い、時に保姆の指揮によりて一

時に十五六人も集ることがあつても長くは續かない。強いて之を繼續せしめんとすれば自由を束縛することになり、分散をはやめなければ甚だしく興味を削ぐことになる。尤も唱歌など唱ふて表情遊戯や進行遊戯などする時は一組全體三十人乃至四十人位出來ないことはないが、かゝることは眞の共同作業とは多少異つたものであらう。若しお説の共同作業が右の程度の如きものとせば今日の幼稚園では大抵して居ない所はあるまいと思ふ。

さうして見ると共同作業といふことは何等かの形にて所謂學校の幼稚園にても家庭的幼稚園にても、否兄弟多き家にては家庭に於ても出來ることであるまいか、何もこれが幼稚園の獨立的價値ではあるまいと思ふ。私の疑問の點は多くは此共同的作業を具體的に了解し得ない所から起つて居るのであらうと思ひますから、特に御説明を御願ひ致したいのであります。

六 學校的保育法の不可な

る説明につきて

次に學校的保育法の不可なることを述べられたる一節について御尋したいことがある。別にこの節の大意即ち幼稚園には固有の目的なれば一も二もなく學校の眞似をするには及ばないとの事にも不審がある譯で無い。其理由としての御説明中の一はよく了解できましたけれども前後一貫して考へると不審が起る。一體お話によると共同精神を養ふには自由でなくてはならぬ、規律があつては束縛せられてよくない、如何にしても學校ではこの規律を無にする譯に行かないから共同精神は養へない幼稚園は自由であるから之を養ふに都合がよい、そこで幼稚園の上級に至り規律をつけて學校生活の準備をする様なことは不都合であるが幼稚園はどこまでも自由に共同精神を養へ、といふにあると思ふ。さて不審といふのは共同作業に規

律があつてはいかぬ、自由でなくてはならぬといふことである。隨て學校では共同精神が養へぬ、之を養ふには幼稚園に限るといふ點である。これも程度問題であると思ふけれども、一體規律といふことは各個人を共同せしむる爲めに必要なものではあるまいか。思ふに眞の共同といふことは各人が全體に關する大要の知識を有し、且つ之れと自己のなすべき部分との關係をよく知り一定の規律に従ひて相互に共力する所に教育的價値があるのではあるまいか。彼の砲兵工廠の職工が一の銃を製造するに何百人といふ多數に分業して居るが各人は只一定の設計の示す所によりて一定のものを作るのみで如何にして一の完全なる銃になるか少しも知らないといふことである。斯の如く全體及部分に關する知識を缺ける合力は眞のとはいへないと思ふ。そこで共同には其計劃に關する一定の知識と、その實行に於ける一定の規律とが必要である。只自由でさへあれば出來るといふ譯では

ないかと思はれる。依て前節に於て申した様な少

数の共同作業ならば幼稚園でも出来ませんが指揮を要する様な多数の共同作業は知識の點よりも規律の點よりも小學校の方が數等優つて居るから行はれ易いのは動かすべからざる事實である。されば共同といふことを規律より放して自由と結び幼稚園にてのみ行はるべきものとして幼稚園の終に至るも尙一定の規律を與へることは共同の精神を妨ぐるものとして排斥せんとせらるゝことは事實と多少組合はない様に思はれる。私共の考へでは幼稚園に於ては自由なれども知識まだ幼稚にして少しく込み入つた計劃は了解することが出来ず、又主我的傾向盛にして規律が行はれ惡いから、眞の共同といふことは困難なれども彼等の社交性を利用して小人數の自由共同を爲さしむることを主として、上組となり、知識も進みや、規律にも慣れ得るに従ひ其共同の程度と範圍とを漸次進めて行きたいと思ふ。而してそれが自然に小學校生活に

入るの準備となるであらうと思ふ。

斯く申せばとて幼稚園の終に於て現今多く行はれて居る様な小學校の眞似をせんとするのではないが、幼稚園には幼稚園の目的がある小學校の眞似をするには及ばぬと云つて自由勝手なことをさせて置いてはいづれ小學校に行かなければならぬ子供として迷惑な話である。現行の小學校の初年級をしてこの自由な幼稚園に近づけんとしてもそれはお説の如く今のまゝでは到底十分には行かぬことであると思ふ。私は常に小學校の一二學年を幼稚園の方へ付けて一團としたならばよからうと思つて居る。一二學年の子供も小學校では上級子供の壓迫を受けて大に其の自由を束縛せられて居るから、之れが出来たならば同一方針を以てこの兩者の聯絡が都合よく行くだらうと思ふがさうでない以上は双方より譲り合つて接近する方が得策であると思ふ。この意味に於て小學校に於ても幼稚園保育を基として出發する様にし、幼稚園の方

でも保育の終期に於ては漸次小學校教育を受けるに都合のよい様に導くが當然のこと、思ひますがいかいなものでせう。

七 家庭的保育法の不可な

る説明について

家庭的保育法の不可なりといふ御説明によると學校なり幼稚園なりが家庭になり代つて教育をするといふことは非常に受けのよい意見であるが又餘程缺點がある。一體が家庭教育が不十分なために幼稚園の必要があるといふならば、その不十分な家庭の眞似をする必要はないのであるといふのである。この御説には少しく行違ひがありはしないかと思ふ。一體家庭的保育法といふのは、家庭に「なり代つて教育」すると云ふよりも寧ろ家庭教育の「不十分なる所を補ふ」といふのではあるまいか。誰も不十分なる所を眞似て教育して居るものがあるまい。元來學校的保育法によると一組に同一

年齢のものを比較的多く入れて全く同一の取扱ひをして居る、幼兒は皆保母から平等視せられて居る、自分が或欲望を充さんと求むる時自己と同等の權利を以て同一の要求を提出する多くの同僚があつて、家庭に於ける時と甚しく異つて居るのである。そこでこの點を緩和せんが爲めに、兄弟の如く年齢の異なる數人の兒童を一保母の下に一族の如くにして保育せんとするのであるからよい事であると思ふ。これで幼稚園と家庭との懸隔がとれて且つ兄弟のない子供には之に代る友達が與へられ、其他家庭教育のよき所は可成保存して不十分なる所を補ふて行かんとするのであり、その上お説の共同精神も適當の範圍に於て養はれるのである、何にも共同精神の養成の範圍が狭いからとて之を棄てるにも及ばないと思はれる。否寧ろ幼稚園としては適當の方向に向て發達しつゝあるものではあるまいか。

より敬意を失することあらば御寛容を御願ひいた します

英文學にあらはれたる子供 (七)

東京女子高等師範學校教授 岡 田 み つ

『トム』と『マギー』 (Tom & Maggie)

——「マギー」が髪を截る一段——

いよく伯父伯母達が御客に來た。而して、デイン「伯母さんは「ルーシー」といふ小女を連れて來た。今「トム」と「マギー」は父親と「グレンツグ」伯父さんとの後に付いて庭から入つて來た處だ。「マギー」は帽子を無造作に投り出して、折角縮らせてあつた髪の毛もばさ／＼になつて居る儘で、「デイン」伯母さんの膝に倚れてゐる。「ルーシー」の所へ駆け寄つて來た。此從姉妹同士は全然似て居なくて一寸見には「マギー」の方が見劣りがするが、眼の利く人が見たらば、今既に老成整つてゐる「ルーシー」よりも、「マギー」の方を、年頃になつ

て發達する見込があると云つて取りさうである。例へば白毛の子猫と、荒くれた大柄の子犬とを並べたやうで「ルーシー」の様子は如何にも清らかなである！圓／＼しい首に、珊瑚玉の飾りをして、小やかな素直な鼻付きで、はつきりした眉が髪の毛よりもや／＼色が濃いので、淡褐色の目の色によく映る。「ルーシー」は今丁度其目を上げて、嬉しさうに極り悪さうに「マギー」を見て居る所である。「マギー」よりも年は一つ位上なのだが、丈は首位も「マギー」よりは高いのである。「マギー」は「ルーシー」に逢ふのは大好きで、いつも心の中に